

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	司法研究科
大項目	8 学習環境
中項目	
小項目	8.0.1 施設・設備の確保・整備
要素	授業等の教育の実施や学習に必要な施設・設備が適切に確保・整備されていること。
小項目	8.0.2 図書・情報源の整備
要素	教育及び学習の上で必要な図書・情報源及びその利用環境が整備されていること。
小項目	8.0.3 学習支援体制
要素	学生が学習に集中できるように支援する体制が備わっていること。
小項目	8.0.4 学生へのアドバイス
要素	学生が学習方法や進路選択等につき適切にアドバイスを受けられる体制があり、有効に機能していること。
小項目	8.0.5 カウンセリング体制
要素	学生が適切に精神面のカウンセリングを受けることのできる体制があり、有効に機能していること。
小項目	8.0.6 国際性の涵養
要素	国際性の涵養に配慮した取り組みがなされていること。
小項目	8.0.7 クラス人数
要素	1つの授業を同時に受講する学生数が適切な数であること。
小項目	8.0.8 入学者数
要素	入学者数が入学定員に対してバランスを失っていないこと。
小項目	8.0.9 在籍者数
要素	在籍者数が収容定員に対してバランスを失っていないこと。

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 在学生に対するキャレル割り当て率を100%とする	→キャレル割り当て率	C	A	A	A	/
2. 学生用の自主ゼミ室を現状の2倍に増室する	→自主ゼミ室の増室数	D	D	D	D	/
3. 資料室の蔵書数を倍増(12000冊)させる	→蔵書数	D	D	D	D	/
4. 学習支援に関する学生の要望に的確、迅速に対応して学習支援体制の一層の充実を図るために、学生との意見交換会を年間で4回開催する。	→クラス連絡会との意見交換会の回数、教員と学生の参加者数	B	B	A	A	/
5. 学習方法や進路など学生の多様な相談に対し適切な個別指導を実現させるために、1年次から3年次までの持ち上がり方式の担任制を構築し、明示する。	→担任制度の決定、公表	B	A	A	A	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大学・法人・他研究科の理解と支援により、2011年3月に大学院2号館（ロースクール棟）の自習室1室および大学院I号館の共同研究室2室（全学共用）をキャレル用に転用されることとなった。席数は159席から263席（104席増）に増設され、キャレルの貸与は在学生全員に割り当てることが可能になっている。
目標2	自主ゼミの部屋として位置づけられているのは多目的室A・B・Cのみである。現状としては慢性的な不足状態が続いているが、1号館および2号館の空き教室を最大限活用することでしのいでいる。校舎や教室の増改築に関わる事項であり早急な改善は困難な状況である。
目標3	現在の資料室での蔵書数は7,348冊（2013年5月末現在。製本雑誌は含まず）で、2009年設定の目標12,000冊にほど遠い。資料室収蔵可能冊数は文科省の計算基準〔(棚板延長数÷0.9)×25〕により6,528冊（棚板延長数235m）であり、資料室の拡充なしに蔵書数を増やすことは物理的に困難である。現状は、必要性の低い図書を図書館に返還して資料室の収蔵スペースを確保している状態である。
目標4	2012年度はクラス連絡会を春学期2回、秋学期2回開催し、学生と教員の活発な意見交換の機会が得られている。
目標5	2010年度入学生以降は担任制が実現され、3年間（2年間）一貫して担任教員が学生へアドバイスをする体制が整っている。1人あたりの教員の担任学生は9名程度である。なお、全学的な取り組みとしてオフィスアワー制度が設けられ、全専任教員は決められた時間帯に研究室に待機して、学生を直接指導する体制が整っている。
備考	